雅楽の魅力を探る

多度雅楽会館主　田中松緑さんに聞く

庭園や自然豊かな多度を舞台に、雅楽の芸術を追求する多度雅楽会。今月27、28日、桑名市の六華苑で開かれる秋の舞楽会（県民文化祭指定）を前に、同会館主の田中松緑さん（43）に見どころや魅力をうかがいました。

田中松緑さん

毎年春秋恒例、六華苑で全国最大規模　10曲上演

■雅楽と桑名における歴史は―

雅楽は、古代の日本音楽と外来音楽が融合した日本の伝統オーケストラです。宮中に伝わる雅楽（国指定重要無形文化財）は世界遺産に登録されました。

桑名では、天平時代の多度神宮寺に「楽具」の記録があります。江戸幕府の老中松平定信から桑名藩が受け継いだ雅楽が三重に生きています。

■「秋の舞楽会」の見どころは―

2日間とも、古代絵巻を物語る華麗な舞を全国最大規模で10曲上演します。舞は左方（南方伝来の音楽と赤装束）と右方（北方伝来の音楽と緑系装束）の2つに分類され、左方と右方を交互に音楽の伴奏で舞います。

桑名といえば、石取祭の太鼓と鉦（かね）。その源流は、雅楽の打楽器です。火焔（かえん）を現す祭車は、舞楽の大太鼓（だだいこ）の影響を受けています。全長7㍍と巨大な大太鼓と大鉦鼓（おおしょうこ）は、舞台の左右に配置されます。太鼓と鉦鼓の装飾は、左が日輪の金に昇竜、右が月輪の銀に鳳凰。秋は、国名勝庭園の紅葉と白亜の近代洋館を背景にした舞台です。

■舞の最初に古式があるようですが―

振鉾三節（えんぶさんせつ）という舞で始まります。笛の乱声（らんじょう）という複数の奏者による曲の乱れ吹きに、太鼓と鉦の拍節を伴奏にして、金色の鉾を持った赤装束の左方舞人（さほうのまいびと）が天を清めます（一節）。

次に、銀色の鉾を持った緑装束の右方舞人（うほうのまいびと）が地を清めます（二節）。

最後に、左方と右方の2人の舞人が同時に鉾を合わせて左右に振って祖先を敬うという（三節）舞楽開始の舞台儀式です。

龍笛、楽箏、鉦鼓など8管絃打楽器で演奏

■どんな楽器で演奏されるのですか―

3つの管楽器、3つの打楽器、2つの絃楽器で演奏されます。

楽器は、写真右前から順に、打楽器の鞨鼓（かっこ）、太鼓（たいこ）、鉦鼓（しょうこ）、絃楽器の琵琶（びわ）、楽箏（がくそう）、管楽器の笙（しょう）、篳篥（ひちりき）、龍笛（りゅうてき）で構成されます。

これら楽器による合奏曲ごとに定められた装束を着けて舞う芸術が「舞楽」です。

管絃楽の優雅な調べ

躍動美、優雅、豪華絢爛　平安貴族の栄華物語る舞

■子どもたちの舞もあるようですが―

はい。童舞（わらべまい）と言います。市内公募により選ばれた子どもたちの舞です。

秋の「迦陵頻」（かりょうびん）は、鳥の舞。古代シルクロード由来の生きた文化遺産です。本年は、多度中小学校の児童4人が舞います。御台所祭などで地域振興にも活躍しています。

■面を着けて躍動感あふれる舞もありますね―

走舞（はしりまい）といいます。遊牧民族の名残ある毛皮に動物等を意匠した華麗な「裲襠」（りょうとう）装束の舞人がいかめしい舞楽面を着けて桴（ばち）を持って舞います。太鼓を連打する夜多羅（やたら）拍子に代表され、舞人が舞台全体を動き回り、時折走るなど、力強く躍動的な舞振りです。

今回は、人が酒を飲んで舞う「胡飲酒」、聖徳太子が笛を吹くと猿の神が舞う「蘇莫者」、親の敵を追い求める「抜頭」などを上演します。陰陽師で有名な「安摩・二の舞」もお楽しみください。

■平安貴族の栄華を物語るような優雅な舞は―

平舞（ひらまい）です。四季に恵まれた我が国ならではの自然の色彩と感性で、花や動物などを刺繍で意匠した唐装束（からしょうぞく）や王朝装束は豪華絢爛です。壮大な宇宙や、「もののあわれ」を表現した音楽に合わせて、複数の舞人が袖を振りながらゆったりと舞います。

今回は、琵琶や箏を加えた華やかな音楽の中で、まず、舞人10名が舞台を大輪で回り、序曲4人舞「輪台」に続き、本曲2人舞「青海波」を、和歌「伊勢海（いせのうみ）」の歌を交えながら唐装束で舞います。「白浜」は篳篥と笛のソロの序吹きで始まり、本曲では、4人の舞人が花の形を造り巡る王朝装束の舞です。

躍動感あふれる蘇莫者

多度の自然を舞台にした芸術美追求できる地域を

■多度の自然を守る活動についても力を注がれているようね―

雅楽は音楽や舞だけでなく、上演する庭園や自然の美とともに楽しむ舞台芸術です。自然豊かな多度を舞台に雅楽を楽しむためには、地域の美観を守ることも重要です。

残念ながら、多度の山里は猿害で耕作放棄地が多くなり荒廃しています。そこで、多度を愛する人なら誰でも参加できる地域再生プロジェクトを進めています。柚梅は猿害に強く、多度の土地に適しています。多度の柚梅は、古来、地域産品や健康食品として親しまれてきました。多度山の「宮前の梅塚と山麓の柚井」の地名に香りを伝える地域づくりです。

10年かけて人々と交流しながら樹木を育てて、多度の自然を舞台にした芸術美を追求できる地域景観を守りましょう。

■今後の活動目標は―

次世代の育成と継承体制の確立です。最近、若い会員が活躍しています。

子どもたちに日本の音と舞のすばらしさを伝えながら、わたしの実力を超える後継者を育てることが重要です。毎年春秋の舞楽会は、伊勢遷宮と同じく技を継承する仕組みで、毎回10曲の上演により、主な舞曲を2―3年で経験できます。全国に通用する人材を育成して、東京でも桑名に縁のある深川で毎年公演しています。

■税制優遇の寄付募集とのことですが―

この舞楽会は、六華苑の建物と庭園の美を生かした最高の舞台芸術です。大太鼓と大鉦鼓による舞楽会には毎回100万円費用が掛かりますので、1口1000円で支援者を募っています。

一定額以上寄付いただきますと、文化庁が推進する優れた芸術に対する社会貢献として税額控除の対象となります（対象額は個人1万円以上または企業5万円以上）。地域の伝統文化発展のため、皆さまから寄付をお願いしています。

市内公募の子ども4人で舞う迦陵頻